

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日: 2022年 2月 4日

達成(80~100%が「はい」と回答) ほぼ達成(60~79%) 未達成(60%未満)

事業所名: スポーツ療育センター・ココスポーツ

区分	チェック項目	全体評価	保護者	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者からいただいた意見	改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保 (保護者評価項目1)	達成	達成	・10人の場合、コート・指導訓練室共に狭さを感じることもあるが、活動内容を工夫(少人数のグループ設定、子どもたちの約束事を作る等)し、実施している。		
	2 職員の適切な配置 (保護者評価項目2)	達成	達成	・利用人数に合わせて職員の配置人数を調整し取り組むことができる。		1. 限られた活動スペースの中で、事故・ケガ等が起きないように活動内容やグループ分けを行い、実施していく。 2. 利用人数に応じて必要人員を配置し、支援の充実が図れるように取り組んでいく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備 (保護者評価項目3)	達成	達成	・活動時に視覚支援を使用している。 ・休憩場所・荷物置き等の場所を設定している。 ・用具を使用し、通る場所、並ぶ場所等を理解しやすいように工夫している。		3. 子どもたちが理解しやすい方法を見つけ、全体での掲示を行う。同時に個々の特性に応じた対応も実施していく。 4. 毎日の清掃を継続し、活動の間にも使用した箇所の消毒等、感染対策を実施していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	達成		・毎日、清掃を行い、清潔に保っている。		
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	達成		・日々の申送り、終礼では全出勤職員が参加し、情報共有、課題の解決を検討することができる。月1回の社員MTの実施をしている。		1. 毎日、活動前の申送り・活動後の終礼を実施し、活動中の細かい部分に関しては、取り決めを行っていく。 2. 第三者評価は実施していないが、将来的に導入できるように検討していく。 3. 会社で定められた研修には、全員で参加し、参加できなかった職員には伝達研修を実施していく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	未達成		・第三者評価は、実施できていない。		
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	達成		・毎月Web研修に参加し、子どもの発達に関する知識を習得している。その内容を実際の療育に繋げることができる。		
適切な支援の提供(継続)	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成 (保護者評価項目4)	ほぼ達成	達成	・児童発達支援管理責任者から面談や支援計画の内容報告がある。	・子どもの様子をよく見て下り、本人にあった計画を作って感謝しています。いろいろなプログラムがあり、子どもも楽しく参加しています。	
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	達成		・子どもの状況に合わせた面談を実施し、作成することができる。		
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	達成		・子どもの支援に必要な項目は網羅することができる。		
	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施 (保護者評価項目5)	ほぼ達成	達成	・計画書内容を確認し、支援を実施する意識が低いところがある。	・計画書に沿った支援とその日の子どもの様子に合わせて、とても臨機応変に対応して下さりありがとうございます。	1. 面談担当者(児発管)からの情報共有を行う。その他活動中で気になる事等、職員からの意見の取り上げを行っていく。 2. 子どもの情報を確認しながらその都度、適切な支援が行えるように努めていく。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	達成		・日々チームで話し合い、改善することができる。 ・プログラムを実施の際は、立案して話し合っている。		3. 発達、家族、地域等の項目を作り、必要な支援方法を検討していく。支援内容に関しては、本人や保護者の意見を聞きながら作成していく。 4. 全員の支援内容を細かく把握できていない場面も見られる為、関わる職員が把握できるように情報共有の時間を設けていく。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	達成		・平日、休日、長期休暇共にプログラム内容に違いはなく、運動メインに実施しているが、日々の活動以外にイベントの実施を行っている。		5. チーム全体で活動プログラムの内容を検討する機会を設定できている為、今後も継続していく。社員・アルバイト問わず活動に関わる職員の意見を聞き、改善しながら対応していく。 6. イベント等の開催を増やし、日々の活動以外にも楽しく参加できる内容の提供を行う。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施 (保護者評価項目6)	達成	達成	・日々をプログラムの発展、新しいプログラムの立案ができる。 ・同じ活動でも内容を変え固定しないように努めている。		7. 同じ活動でもルールを変えたりすることで、飽きないように工夫をしている。子どもたちのレベルに合わせて活動の難易度も変え、楽しく参加できるよう工夫していく。 8. 毎日実施することができる。進行する人によって情報伝達の差がないように決まりをもって実施していく。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	達成		・毎日、実施している。 ・実施前に活動内容や役割を確認することができる。		9. 毎日実施することができる。いろいろな角度からの視点を開き、解決方法を話し合っている。チームワークをもって支援を行えるようにしていく。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	達成		・活動終了後に出勤者全員で終礼を行い、振り返りを実施している。		10. 支援記録の作成は個人毎に作成することができる。ヒヤリハット内容の確認も全体で行うことで再発防止に努めることができる。
	10 日々の支援に際しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	達成		・終礼時に各児童の様子を細かく聞き取るようにしている。 ・実施記録、ヒヤリハットの作成を行っている。		11. 定期的に実施することができる。状況に合わせて実施方法も相談しながら取り組んでいる。
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	達成		・定期的に案内を行い、実施することができる。		
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	ほぼ達成		・開催される場合は、必ず参加している。		
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	未達成		・対象児童が利用していない。		
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	未達成		・対象児童が利用していない。		1. 管理者が基本的には参加している。管理者が参加できない場合は、関わりを多持ち、状況を理解している職員が参加するようにしていく。
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小・中)等との間で支援内容等の十分な情報共有	ほぼ達成		・電話での情報共有を実施している。 ・園との直接的なやり取りはないが、保護者からの情報共有を実施している。		2-3に関しては、該当児童がいない。 4. 主に電話連絡にて情報共有をしている。先生等と直接的に関わりを持つことが少ないが、保護者を介して情報をもたせようとしている。その他、必要に応じて施設から学校等への連絡対応も実施していく。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	未達成		・該当児童がいない。		5. 学校卒業(高校3年生)の利用がない為、実施できていない。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	未達成		・連絡は取り合っているが、研修の受講はしていない。		6. 主に電話連絡等にて情報共有をしている。専門研修が中心となっている為、研修の受講はできていないが、今後、知識の向上等、必要に応じて研修の参加を検討していく。 7. 障害のない子どもとの関わりを持てるように、ココスポーツの強み(フットサル)を使い、交流の機会を今後も作っていく。 8. 近隣住民の方、地域の方にも開かれた施設になるようイベントの開催を継続していく。
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合は放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもとも活動する機会の提供	未達成		・一般スクールの実施、イベントの実施、コート解放の実施等、子どもたちが交流できる場の提供を行っている。		
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	達成		・キッチンカーイベントの開催をし、地域の方にも参加してもらえよう取り組んでいる。		
保護者への説明書・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明 (保護者評価項目7)	達成	達成	・契約時に細かく説明している。 ・その他問い合わせがあった場合は、対応している。		
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	達成		・面談時、配布時に児発管から説明を実施している。		
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレントトレーニング等の支援の実施	未達成		・実施していない。		1. 特に契約時に説明時間を設けている。不明点があれば問合せ先の提示等、必要に応じて対応できるようにしていく。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底 (保護者評価項目8)	達成	達成	・保護者引渡しの際に話している。 ・送迎等で出来ない保護者とのコミュニケーションは取りにくいが必要に応じて電話等で対応している。	・子どもの変化に気付いて下り、プログラム以外の時間にも相談に乗って下さります。 ・成長したところや気になったことがあった時に丁寧に説明していただいています。	2. 面談時や配布時に説明時間を設けている。訂正があれば都度、対応できるように保護者とコミュニケーションを取りながら進めていく。 3. 保護者に対する支援は行っていない。施設として実施できる内容を検討していく。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施 (保護者評価項目9)	達成	達成	・どの職員も丁寧に対応できている。 ・報連相も徹底している。	・今後の利用や子どもの様子などで親身になって下さります。	4. 保護者引渡し時を中心に情報共有を行っている。その他、気になる点等は、電話での対応をしている。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	未達成		・実施していない。		5. 保護者からの相談があった場合は、その都度対応できるようにしている。話しやすい環境を作りながら、コミュニケーションをとって行くようにしていく。 6. 実施していない。保護者からの要望があれば開催を検討していく。 7. 苦情対応窓口を設置し、素早く対応できるようにしている。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	達成		・職員間で情報共有し、素早く対応できるように取り組んでいる。		8. 交換ノートで子どもや保護者とのやりとりを実施している。ノート以外の情報伝達としては、直接話をする等、内容によって臨機応変に対応できるようにしていく。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮 (保護者評価項目10)	達成	達成	・交換ノートの使い、やりとりをしている。 ・子どもの理解度に合わせて取り組んでいる。		9. ココススポーツ通信の配信で施設での取組み等を配信している。記載内容に合わせて子どもたちのコミュニケーションの機会を作れる内容を検討している。 10. 個人情報に関しては、外部に漏れないように鍵付き書庫に収納している。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信 (保護者評価項目11)	達成	達成	・ココスポーツ通信、子育て通信を毎月配信している。	・イベントのお知らせや子育て通信等、楽しく読ませてもらう。 ・その都度、ご連絡頂いています。	
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応 (保護者評価項目12)	達成	達成	・気を付けて対応している。 ・個人情報に注意すべき点は、配慮している。		
非常時の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底 (保護者評価項目13)	達成	達成	・施設に保管している。 ・契約時に説明を実施している。		
	2 非常災害の発生に備えた、定期的な避難、救出その他必要な訓練の実施 (保護者評価項目13)	達成	達成	・所定の回数(年2回)を実施している。 ・子どもたちも参加できるように事前に告知をし、実施している。		
	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	達成		・会社全体での研修の参加をしている。		1. 各種マニュアルは施設にて保管しており、契約時に保護者への説明も実施している。今後は簡潔にまとめるように保管場所を変更し、対応する。 2. 避難訓練の実施は、子どもたちを交えて実施している。避難場所を近隣公園に設定し、集団での移動の練習も含めて内容で実施している。 3. 社内研修で学ぶ機会を作っている。 4. 社内研修で学ぶ機会を作っている。必要に応じて計画に明示するように努めていく。 5. 食べ物の提供はない為、特に実施していない。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	ほぼ達成		・身体拘束の研修を受講し、組織的な決定に関しては把握することができる。		6. 毎回の活動後にヒヤリハット案件を精査し、職員で共有することができる。ヒヤリハットに対して次回に活かして行くように対応も検討することができる。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	未達成		・食べ物の提供がない。		
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	達成		・終礼でその日のヒヤリハット内容を確認している。 ・社員MT時に毎月発生したヒヤリハット内容を精査し、改善案を検討している。 ・毎月ヒヤリハットをまとめた全職員に周知している。		